

作成日：2024年7月22日

グリーンローン・フレームワーク

借入人：道北ハウジングシステム協同組合

資金使途	
グリーンローンの投資対象となる 適格クライテリア	<p>グリーンローンで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす設備の取得資金に充当する予定です。</p> <p>[適格クライテリア]</p> <p>材木の乾燥設備の熱源を生成するための木質バイオマスボイラー -株式会社タカハシカン製木質バイオマスボイラー（最高使用圧力 0.98MPa） -機器の所在予定地：北海道士別市西 3 条 20 丁目 464 番地</p> <p>※同ボイラーの燃料は、三津橋産業グループの製材工場の加工過程で発生した廃材（木の皮・バーク）が使用される ※この設備投資によって既存の設備と比べて燃油使用量を 30%以上削減できるもの ※木質バイオマスボイラーを導入することにより、従来のボイラー（重油使用）については原則使用しない</p>
長期ビジョンにたったグリーン投資 方針（任意）	<p>当組合が属する三津橋産業(株)グループでは、「北海道の森を育て、守ります。」という企業理念を掲げ国産材を主体に植林から加工販売の一連の工程を担っています。関連会社三津橋産業(株)で令和 5 年 3 月に公表したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書では「CO2 排出量を 2031 年 3 月期までに、2023 年 3 月期対比 10%削減」というグループ KPI を掲げており、本 KPI を達成させるべく三津橋産業グループ一丸となって取り組みを進めています。本プロジェクトはその一環として具体的施策に挙げていた計画です。</p>
資金の調達方法と投資先	<p>・調達方法：借入金 ・投資先：木質バイオマスボイラー購入費用</p>

プロジェクトの選定基準とプロセス

プロジェクトの選定プロセス	<p>1. プロジェクト選定関与者</p> <p>本フレームワークに基づき調達される資金の充当プロジェクトについては、三津橋産業グループの代表企業である三津橋産業株式会社の経理課関与の下で適格クライテリアへの適格が検討及び評価され、当組合代表理事の決裁によりその選定が行われています。</p> <p>2. プロジェクト選定プロセス</p> <p>プロジェクトについては、従前蒸気生産行っていた三津橋産業株式会社と乾燥機を運用している道北ハウジングシステム協同組合が共同で本件プロジェクトを起案行い、その資金用途をグリーンファイナンスとして調達行うことについて、最終決裁者を代表理事とする社内稟議によって承認される。</p>
グリーンプロジェクトが環境に与えるネガティブな影響とその対処方法	<p>想定されるリスク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工事実施時の周辺環境への騒音 2. 既存設備の破棄に伴う環境負荷 <p>並び周辺住民への説明リスク緩和対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施工時間の制限並び周辺住民への説明の実施 2. 既存設備があった建屋は倉庫に転用することで廃材の最小化を図る。
適格プロジェクトの選定基準およびプロセスの開示方法	<p>本件プロジェクトの選定基準並びに選定プロセスに関しては当組合 WEB サイト・JCR 評価レポートによるフレームワークの公表を通じて開示いたします。</p>

資金管理の方法

調達資金の充当計画	<p>本フレームワークに基づき調達された資金は、当組合の事務担当が三津橋産業(株)経理課の監督指導の下、適格プロジェクトへの充当を行います。調達資金は1週間以内に適格プロジェクトへ充当予定です。</p>
調達資金の追跡管理の方法	<p>本フレームワークに基づき調達された資金は、当組合事務担当が三津橋産業(株)経理課の監督指導の下で適格プロジェクトへ支払いを実施し、そのエビデンスを保管します。</p>
追跡管理に関する内部統制お	<p>充当された資金の追跡の説明のため、下記の内容に係る内容に</p>

よび外部監査	<p>ついて当組合事務担当と三津橋産業(株)経理課の共同で作成されるレポートを通じて、代表理事を最終決裁者とする社内回覧を行うほか、当該レポートはレポートを貸出人に開示し支払が適格プロジェクトへ充当されたことを説明します。</p> <p>① プロジェクトにより調達された設備の現在状況 ② プロジェクトにより調達された資金の充当状況とエビデンス</p>
未充当資金の管理方法	<p>本フレームワークにより調達した資金が適格クライテリアを満たすプロジェクトに満足に充足されない場合は、資金の混在を避けるため分別管理により本プロジェクト以外への充当を抑止します。</p> <p>全額充当後において、資金用途の資産が耐用年数を超過せずに売却または毀損によって現金化された場合は、本プロジェクトの資金調達で利用した補助金の返納に充てる予定です。</p>

レポーティング	
資金の充当状況に関する開示状況	<p>本フレームワークに基づき調達された資金については、以下の内容について、貸付人に年次で報告するとともに、ウェブサイトにも年次で開示いたします。</p> <p>① 本フレームワークに基づく資金調達額 ② プロジェクトへの充当金額 ③ 未充当金額の発生状況と対処状況</p> <p>なお、本フレームワークにより調達された資金はプロジェクトに速やかな全額充当を予定しており、その後の資金充当について大きな変更が生じた際は貸付人に都度報告を行う予定です。</p>
インパクト・レポーティングの開示方法及び開示頻度	<p>・KPI の実績について、貸付人へ年次で報告するとともに、当組合ウェブサイトにも年次で開示いたします。</p>
インパクト・レポーティングにおけるKPI (Key Performance Indicator)	<p>・CO2 排出量と削減率</p>

以上